

東京水景デザインサーベイ 東京下町の水辺空間の復権 第5回イベント

調査・セミナー《蔵の街：とちぎまちづくり探訪》

【日時】2024年10月19日 土曜日 10:00~16:30

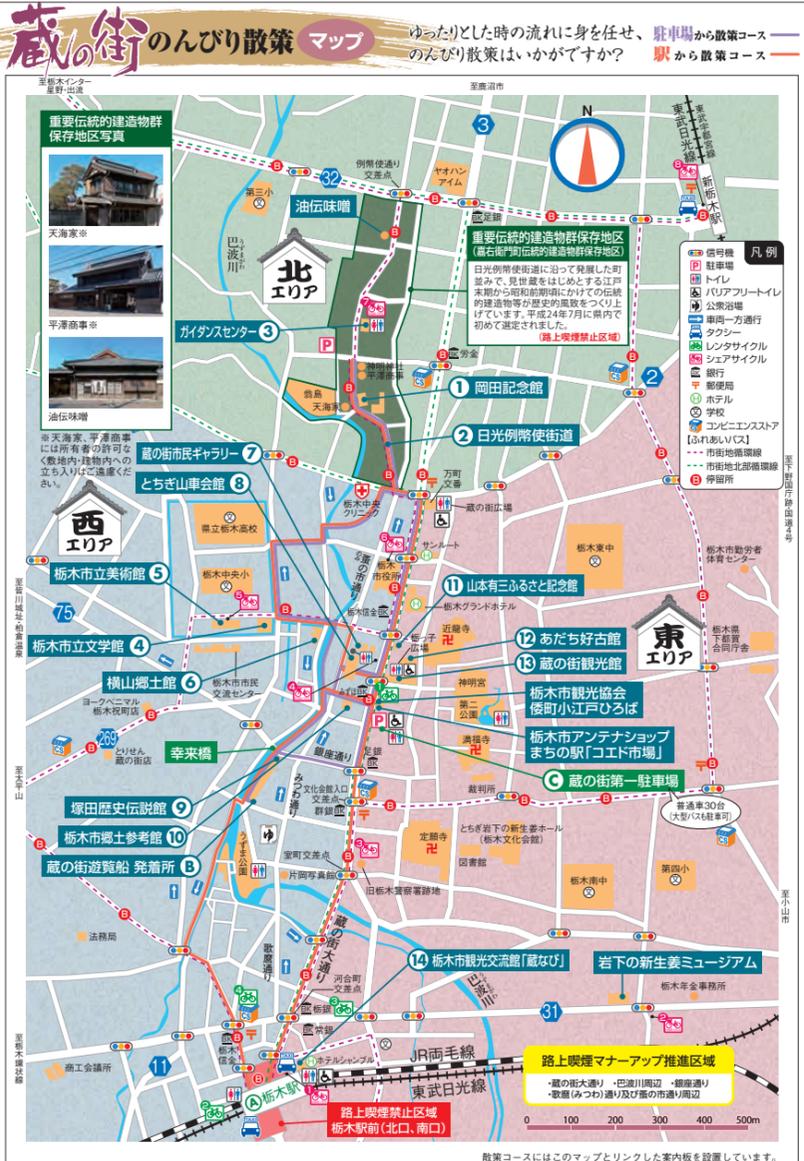
【調査地域】栃木県栃木市

巴波川周辺 / 嘉右衛門伝建築地区

【参加者】13名 (学生6名)

今回のイベントでは、栃木市の伝統的建築物群保存地区と水辺空間を生かしたまちづくりについて学ぶため、伝建地区に指定された嘉右衛門伝建築地区と巴波川周辺を調査した。“小江戸とちぎ：蔵の街”の魅力を向上させるため、Walk Works を設立し活動されている遠藤翼さんを講師に迎え、遠藤氏のガイドのもと街を散策し、その後レクチャーをしていただいた。

▽栃木駅から蔵の街大通り沿いに中心市街地が形成されている。西エリアに巴波川、北エリアに嘉右衛門町伝建地区がある。



蔵の街 のんびり散策マップ 出典：栃木市観光協会

■ガイドツアーに参加して

蔵の街遊覧船 / 巴波川周辺 / 蔵の街大通り / 嘉右衛門町伝建地区
始めに、巴波川にて遠藤氏が船頭を務める遊覧船に乗りながら、小江戸とちぎの歴史や文化について教えていただいた(写真1)。現在の栃木市は、江戸時代初期は「栃木町」という名の城下町で、日光への交通の要衝地として道と河岸が整備され発展した。日光列幣使街道が通り、宿場町の基礎が築かれた栃木市は、渡良瀬川と巴波川を利用した舟運によって発展していったが、幕末に度重なる火災が起こる。この大火をきっかけに瓦屋根、土蔵造りが普及し、見世蔵のような独特な蔵造りの街並みが形成されていった。明治17年に栃木県庁が宇都宮市に移転したこともあり、大きな空襲の被害を受けなかったため、栃木市には現在も蔵のある歴史的な街並みが残り続けている。

遊覧船を終えた後、現存している特徴的な蔵などについてガイドしていただきながら巴波川周辺を散策した。巴波川の河岸は道路から一段降りた綱手道が特徴的である。舟運を行っていた当時、湧水もあり川の流が速かったため、上りが大変で、両岸に舟を引くための綱手道が整備された。現在では水量が落ち着いたこともあって綱手道は親水空間となっており、鯉や鴨に餌をあげる親子なども見られた(写真2)。巴波川周辺には、登録有形文化財の雅秀店舗を始め、明治期の蔵である横山郷土館や住宅と融合した蔵などいくつかの形態が見られた(写真4)。また、当日は蚤の市通り(日光列幣使街道へ続く)でイベントが開催されており、巴波川と平行した通りはかつての宿場町ならではの賑わいがあり印象的であった。

巴波川周辺の次に、同じく川に平行して走る蔵の街大通り(県道11号)を散策した。蔵の街大通りでは、当時からの形を残した蔵、蔵の一部を改装した建物、瓦屋根の建物、現代の建物が入り混じりつつ並んでいた。



1. 蔵の街遊覧船



2. 綱手道で遊ぶ子供



3. 舟運の様子が描かれた銅板



4. 巴波川に面した横山郷土館

街歩き最後に、栃木市のもう一つの魅力である嘉右衛門伝建築地区を散策した。嘉右衛門町伝建地区は栃木市の中心市街地の北に位置し、江戸時代に日光例幣使道に沿って敷地割りされ、商業で繁栄した地区である。現在も形成された敷地割りを良く残し、江戸時代末期から近代にかけて建築された主屋や土蔵など伝統的建造物が多く残り、街道沿いに発展した在郷町の特色ある歴史的風致を伝えている。建物は通りに対して母屋を置き背後に蔵などの付属屋を並べるのが一般的であり、店舗建築には見世蔵が多く残されている。当日見学させていただいた大貫邸では見世蔵(土蔵造りの店舗)が通りに対して置かれていた(写真5)。大貫邸では敷地背後に巴波川が流れており、現在も堀から平柳河岸へと出ることができ、かつて舟運が栄えていた時代の名残を確認することができた(写真6)。



5. 大貫邸



6. 平柳河岸

嘉右衛門町は江戸時代に岡田嘉右衛門が拓いた嘉右衛門新田村が起源であり、日光例幣使道の宿場町と巴波川の舟運によって栄え、明治期に嘉右衛門町として改称された。当時の日光例幣使道に面して岡田家の陣屋が置かれ、現在は岡田記念館となっている。嘉右衛門町には岡田記念館のような伝統的建造物が並ぶ一方、洋風の外観をした建物もあり、変化に富む街並みが特徴的である。また、歴史的風致を残しつつも、遠藤氏が運営している「share kitchen & space CHIDORI」(写真7)を中心に、空き家に新しい飲食店や雑貨店が見られた。お店を始めたい人が、日替わりのシェアキッチンで初期費用を抑えて出店でき、軌道に乗ると嘉右衛門町などで独立できるといった仕組みが、地区の活力向上に寄与していた。また建物は元駄菓子屋を遠藤氏自身で改修したもので、土間をそのまま活かした空間が印象的であった。



7. 岡田記念館



8. share kitchen & space CHIDORI

■クロストーク

(嘉右衛門町伝統的建造物群保存地区拠点施設にて)

まち歩きの後には嘉右衛門町伝統的建造物群保存地区拠点施設にて、クロストークを行った。遠藤氏のレクチャーで栃木市の水景や伝建地区について理解を深め、その上で栃木市の魅力やまちづくりについて議論を交わした。嘉右衛門町伝統的建造物群保存地区拠点施設は嘉右衛門町の北部に位置し、かつて味噌工場があった跡地を栃木市が取得し整備した施設である。通りに面した木造の店舗が修理・復元によりガイダンスセンターとして活用され、車両待機場場だった場所には交流館が新築され、本レクチャー等がおこなえる施設として機能している。(写真9)。

クロストークの初めは「栃木市の水景」について。明治期の嘉右衛門町の様子が記録された「大日本博覧図 栃木県之部」(明治23年発行)を見ると、巴波川が手前に描かれており、当時の嘉右衛門町にとって舟運が重要であったことが伺える。当時は巴波川の水位が高く船が通ると等しい高さにあったことや、所有者ごとに細かく割り当てられていたであろう河岸が、現在は一般の通り道となっていることなど、当時の水景に想いを馳せながら現在との違いについて議論を進めた。

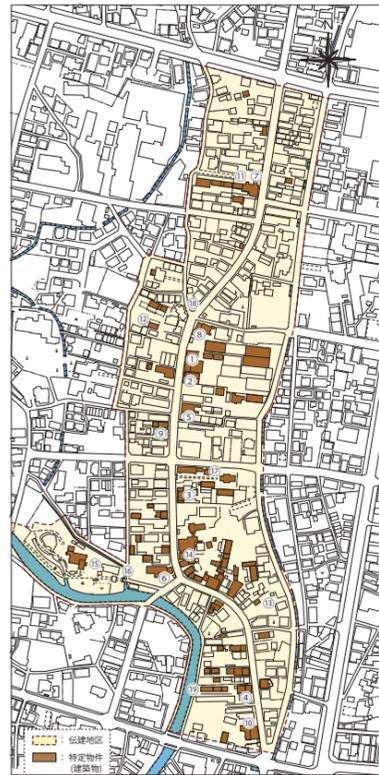


9. 嘉右衛門町伝建地区拠点施設 / ガイダンスセンター (左)、交流館 (右)



■大日本博覧図 栃木県之部

また、伝建地区における空き家の活用について、伝建地区での建築物にかかる制限や補助金などの細かいルール、および walk works によるエリアマネジメント活動について教えていただき、遠藤さんが考える「伝建地区を維持するだけでなく活用するための仕組みづくり」について学んだ。伝建地区では「修景」として歴史的建造物の維持を図っているため、補助金の対象は街並みに関連する外装や建造物を維持するための構造などに限られる。改修の制限は外観に関して厳しい反面、内部に関するルールは比較的緩く、既存建物内部のつくりを残すかどうかは利用者に委ねられるという話が印象的であった。そのため、現代では不便な面も利用者が楽しみながら活用することが期待されるが、店舗利用するにはバリアフリーの観点なども重要であり、どのように建物を活用するかは利用者の考えに委ねられるのが現状である。



保存地区マップ
出典：嘉右衛門町伝建地区リーフレット



10. 弁当屋 AKARI



11. 特定物件

特定物件として指定されている建物の活用(上)と維持(下)

蔵の活用についても検討が必要であり、倉庫であるため湿気が強いことが課題として挙げられた。栃木市に残る蔵には石造りのものも多く、住居と一体化した蔵や、格式を示すためと思われるディテールへのこだわりが見られる蔵がある。特に横山郷土館では、目地幅の大きな額縁や煉瓦で作られた鉢巻など、細部のこだわりが多く見られ、興味深かった(写真12,13)。

最後に、遠藤氏に嘉右衛門町伝建地区や栃木市の今後の展望についてお話を伺った。まず嘉右衛門町については、「空き家を活用した動き」から、「歴史的建造物である建物の活用」にフェーズを進めることを考えており、跡継ぎがない建物を放置せず、維持しながら活用していくために、さらなる仕組みづくりが必要となっているとのことであった。一方、栃木市全体をより



12. 横山郷土館



13. 住居と一体化した蔵

盛り上げていくには、嘉右衛門町と中心市街地との連携も重要視していた。この地域では味噌や肥料づくりが生業として残っており、過度に商業化されていない「暮らしのある街」が栃木市の良さである。現在では新たな産業として観光業が推進されているが、観光やインバウンドによる一過性の魅力で終わらないような新たな工夫が必要である。今後は、観光業に偏りすぎず、栃木市ならではの「暮らしがある歴史的なまち」を地域の価値として最大限活かしていく取り組みが理想的なのだろう。現在は、walk works のシェアキッチンが地域内外で注目されるようになり、隣の宇都宮市からの利用者もいるほど、栃木市の新たな価値となっている。

■記録者後記

今回は栃木市の調査を通じて、水景と伝建地区が地域生活と共存している事例を学ばせていただきました。巴波川は観光業として遊覧船を行っている一方、かつての綱手道は現在市民が日常的に立ち寄りやすい空間となっていました。また、嘉右衛門町は伝統的建造物を保存しつつも空き家を活用することで新たな魅力をつくっており、訪れて楽しい、暮らしのある街でした。伝統的な生業や街並みを残す地方都市の一例を調査し、観光と暮らしのバランスの重要性について理解を深め、非常に学びの多い体験をさせていただきました。最後に、レクチャーしていただいた遠藤様に心よりお礼申し上げます。(千葉大学・佐藤、漆原)



嘉右衛門町伝統的建造物群保存地区拠点施設 交流館にて